

法華經における浄土について 望月海淑

◎日蓮宗教学研究発表大会(昭和五十一年度)

第二十九回日蓮宗教学研究発表大会は、身延山短期大学を会場として、十月廿七日・廿八日の両日にわたり開催された。研究発表者と論題は次の通りである。

覚知道と還恩道

本間裕史

天台僧信尊について

高橋謙祐

金光明経に見られる法華思想

三友量順

日蓮聖人の具足論

庵谷行亨

宗門史上における徳川光圀の研究

高崎宣亮

詩僧元政上人

宮崎海優

此経難持の口語訳について

室住一妙

日蓮聖人の時間論

伊藤光明

日蓮宗の己心論争

小野文瑠

伝教大師の戒律について

望月海英

身延山の出開帳

北村海聡

能勢地方における日蓮教団の展開

植田観樹

種子島・屋久島に於ける法華教団の成立と発展

松井孝純

万年救護の御本尊について

早瀬公人

備前における御遠忌題目碑について

岡田栄照

執金剛について

望月海淑

西北インドの法華経

高橋堯昭

前田家と本宗との関係

藤井教雄

入楞伽経の種姓について

清水要晃

グプタに敵対したプシュヤミトラについて

仲沢浩祐

順正理論における無表業説の一考察

三友健容

不軽と上行

中条暁秀

日唱の身延除歴事件について

林是晋

日蓮聖人の仏身観

北川前肇

日蓮教学と檀信徒の問題

沖原成行

日蓮宗における檀林法度の制定について

冠賢一

―飯高・小西・三味堂檀林を中心に―

渡辺宝陽

信行論の問題点

上田本昌

近世文学と法華信仰

以上廿八名

学園便り

◎同窓会総会開かれる

昭和五十一年十月二十六日(火曜日) 正午より、本学

に於て同窓会の全国総会が開催された。これは会則第三条に定められている通り、三年毎に定期総会を開くことになっているため開催されたものであり、全国各地から百名近くの会員が集まって、盛大に大会が催された。

先ず午後一時より久遠寺仏殿に於て、物故者の追悼法要が営まれ、記念写真撮影の後、大学に於て総会に移った。長谷川寛慶師の司会で、開会の辞を松井大周副会長が述べ、続いて灘上恵教会長の挨拶があった。このあと本山代表（斉藤嶺運経理部長）の挨拶、学頭の里見泰穂先生の挨拶があり、座長に小崎竜雄師が選出されて議事に入った。

庶務（石川是行師）・会計（町田是正師）の報告に続いて、各地の支部結成状況報告があり、会則の一部変更が認められ、続いて任期満了にともなう役員の変更に入った。選考委員が選ばれ、別室に於て慎重審議の結果、次の通り正副会長が決った。（今回より副会長が、五名に増員された。）

| | |
|-------|--------------|
| 同窓会会長 | 灘上 恵 教師（再任） |
| 副会長 | 松井 大 周 師（〃） |
| 全 | 池上 要 輝 師（〃） |
| 全 | 小崎 龍 雄 師（新任） |

全 白川 栄 澄 師（〃）
全 吉川 啓 全 師（〃）
最後に地元の山梨県支部長岩田日成師が、閉会の辞を述べて、盛会のうちに終了した。

このあと別室に於て、懇親会が開かれ、なごやかな中に歓談した。尚、詳細は「同窓会々報」を参照されたい。

（上田本昌・記）

◎ 第四回 身延町内一周駅伝大会に優勝

昭和五十二年二月十一日（建国の日）に、身延町体育協会と健康づくり身延町推進協議会との共同主催による町内一周駅伝大会が開かれた。この催しは今から四年前に計画され、毎年一回この日に実施されて来た。

本学からも毎回出場して、第一回は六位入賞、第二回と第三回は三位に入賞していたが、今回は念願が叶って「身延山Aチーム」が第一位となった。

この大会には身延全町から、町内会単位・職場団体単位の、合計四十一チームが参加し、五区間を五人の選手で走ることになっているもので、本学からは大学と高校の学生を中心として「身延山A」と「身延山B」の二チームが参加し、「身延山A」チームは一時間二七分四七秒という大会新記録で、町内会別、職場団体別を通じて

堂々初優勝をとげ、沿道の町民多数から拍手を受けた。尚、「身延山B」チームは、わずかの差で第八位（職場団体の部）となり入賞を逸したが、次回に期待がかけられている。（山田是明・記）

◎練成修養道場の完成

身延山で学ぶ学生のために、学園の諸施設の整備拡充を続けてきた身延山短期大学では、先に体育館を建て、行学寮を新築し、このほど念願だった学生のための練成修養道場が新築し、落成式をあげた。

この練成道場は、日蓮聖人七百遠忌事業のひとつとして建設されたもので、昭和五十一年の七月に着工。十月には上棟式を挙行し、十二月八日、祝尊成道会を期して落成式が盛大に行なわれた。

道場は、新体育館裏側に建てられ、合掌した形の屋根がモダンで、近代的な本館校舎、体育館とならぶと、いかにも練成道場にふさわしいムードと調和をみせている。内部は屋根を支える鉄骨が、やわらかい曲線と力強い直線で構成されている。（本誌の扉の写真を参照。）正面には一遍のご首題を掲げ、床の間を中心にした畳敷きの部分と、板敷きの部分の、二つに分かれている。畳では心の錬磨を、板敷きでは体の鍛練をめざしたもの

で、学生が身心を磨くには、まことにふさわしい設計になっている。

この道場の完成によって、身延山大学では、本館（校舎）、体育館、行学寮、練成道場と四つの大きな近代建築がそろった。ここで学ぶ者にとっては、物心両面にわたって恵まれた環境の中で勉学に励むことになり、各方面から大きな期待が寄せられている。

落成式は、学長である望月日滋猥下の導師で行なわれ里見泰穂学頭が経過を報告。ついで完成の祝賀をこめて来賓による日本居合道の型のひろうや、地元有段者と学生による柔道の模範試合などが行なわれた。

—◆◆— お 願 い

◎本誌は「会員制」となっております。会費は年額二千五百円です。発行のつど同封の振替用紙をご利用の上、ご送金願います。

◎お知り合いの方々の中で、まだ入会されていない方にはぜひ御入会下さるようお勧め下さい。よろしくご協力の程、お願い申し上げます。